

三河地震から70年、地域防災を考える

ふりかえる
災害

震度7が安城市でも

た5カ所の地域に碑が建立されています。藤井町の碑(写真①)には、町内のほとんどの住宅が倒壊したなど、被害が甚大であったことが記されています。

戦時中の2つの地震

三河地震は、昭和19(1944)年12月7日に発生した昭和東南海地震の約1カ月後に、深溝活断層や横須賀断層上で発生した直下型地震です。この地震は、東南海地震の断層面からそれほど離れていない地域で起きており、東南海地震が三河地震の断層にも影響を与えたと考えられています。そのため、三河地震は東南海地震により誘発された、広い意味で余震ではないかとも考えられています。

東南海地震の断層面がある南海トラフ沖で発生する海溝型地震の南海トラフ沖地震は、およそ90年から150年に1度発生しており、近年この地域に地震が発生する確率が高まってきています。(次頁の図表参照)

安城市内で過去に推定震度7の地震があったことを知っていますか。昭和20年1月13日に三河地震が発生しました。今一度、三河地震を振り返り、今後の地震にどう対応したらいいかを考えます。

そして、地域の一番身近な場所で私たちの安全を支えてくれている消防団を紹介します。



①三河地震の被害を伝える三河地震追憶之碑 ②東端区役場 ③根崎十字路
(②・③は昭和20(1945)年1月大浜警察署撮影、碧南市教育委員会提供)

安城市域の三河地震被害状況(出典：昭和20年1月13日三河地震の震害と震度分布／愛知県防災会議地震部会)

区分	人		住宅	
	死亡	負傷者	全壊	半壊
安城市	21人	62人	162棟	518棟
桜井村	179人	252人	435棟	522棟
明治村	220人	432人	693棟	511棟
依佐美村	8人	67人	28棟	25棟
計	428人	813人	1318棟	1576棟

現在、市内で被害の大きかったらしました。

災害に
そなえる

南海トラフ巨大地震にどう備えるか？



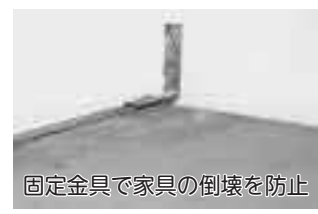
三河地震が発生してから来年で70年が経過します。また東海地震は前回発生してから160年間発生していません。安城市でもいずれ起こるとされる地震について知り、対策を考えてみましょう。

■今後発生すると予測されている地震の規模と被害

愛知県防災会議地震部会が5月に南海トラフ巨大地震の被害予測調査結果を公表しました。安城市における予測調査結果は左表のとおりです。

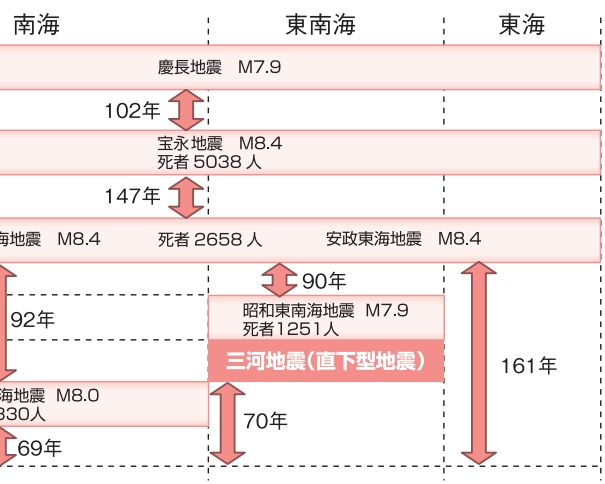
■災害対策

建物の耐震化や家具の転倒防止・落下防止対策により、建物被害は6割、人的被害は6／8割程度減少すると想定されています。被害を防ぐ・減少させるには、日頃の各家庭・企業での取り組みや、防災訓練がとても重要です。



■安城市の主な取り組み

防災減災のため、さまざまな取り組みをしています。



図表：地震の頻度

南海トラフ巨大地震が起きた場合の安城市の被害想定

	過去地震最大モデル (過去安城市で発生した地震をベースにした場合)	理論上最大想定モデル (あらゆる可能性を考慮した場合)
最大震度	震度6強	震度7
全壊・焼失棟数	約1900棟	約15000棟
死者数	約70人	約700人

安城市でも被害が予測されています。各家庭での対策が重要です。



危機管理課 伊吹敏郎



防災訓練

相談内容	取り組み	問い合わせ先
住宅の耐震をしたい	木造住宅・非木造住宅の耐震診断費・耐震改修費補助制度	建築課 (☎71)2241)
	住宅耐震改修に伴う固定資産税の減税	資産税課 (☎71)2215)
家具が転倒しないか心配	家具転倒防止器具取付事業(高齢者は社会福祉課、障害者は障害福祉課が担当)	社会福祉課 (☎71)2223)
	家具転倒防止器具取付講習(自主防災組織が対象)	障害福祉課 (☎71)2225)
ブロック塀を生垣にしたい	生垣等設置奨励補助金制度	危機管理課 (☎71)2220)
		公園緑地課 (☎71)2244)

災害はいつ起こるかわかりません。家庭で災害に備えることはもちろんですが、災害などの非常事態に、地域の消防団が活動していることを知っていますか？ 次の頁では消防団の活動をご紹介します。



江戸時代からある消防団

消防団は、消防署と同様に、消防組織法に基づき市町村に設置される消防機関です。地域における消防・防災の要として、地域に密着し、火災や災害への対応、予防啓発活動などをし、地域の安心・安全を守っています。

消防団の歴史は古く、江戸時代に町火消を設置したことが前身であるといわれています。江戸時代の火消と現在の消防団の地域を守るという目的は一緒です。

全国では、約88万人の消防団員が活動しています。安城市には30の分団があり、40名の団員が活動中です。

日頃の消防活動以外の主な行事として、4月に新入団員を迎えての入団宣誓式、6月に消防活動の基本となる消防操法技術を競う操法競練会、1月に消防関係団体の団結と士気を高める消防出初式があります。

もし火災が起こったら・・・
消防団の出動から消火まで



●火災発生

119番通報は、刈谷市の衣浦東部広域連合消防局にかかります。消防職員が現場の状況を聞き、現場近くの消防署に指令を出します。同時にメールで消防団員に連絡が届きます。



●メールを確認

詰め所へ急げ！無線でも情報が受信できます。



●詰め所に到着

消防車や防火服などが保管されています。消防団が会議で使う場所でもあります。



●出動準備

防火服が法被を着ます。ヘルメットも忘れずに。



●出動

3人以上集まったら消防車で出動。

●消火

現場に到着し消火作業を開始。交通整理もします。

消火完了！

“地域を守る”それは自分の家族を守ること
～連続放火事件の影で地域のために動いた西尾分団～



県大会入賞のメダルが光っています

◆入団理由はさまざま

入団した理由は、どうしても頼まれたから、くじ引きで負けたから、町内に就職し入団を勧められたからなど、さまざまです。理由はともあれ、1年目から23年目まで20～50歳の団員がそろった西尾分団。学校の部活のような雰囲気、皆さん「活動は楽しい」と口を揃えます。

◆火事の現場を目にして

2年目の末松さんの初出動は入団初日でした。消防車で現場まで緊急走行し、消火の様子を目の当たりにして、「こんな近くまで行くんだ」と驚きました。



◆3位入賞の県大会

今年、県の消防操法大会に出場し、安城市として初のメダルを獲得。しかし、優勝し全国大会へ行くことが目標だったので、3位入賞は団員にとっては満足いく結果ではありませんでした。練習を見守ってきた安城消防署の署員は「操法競練会の練習を嫌がる団員もいますが、西尾分団は練習が楽しいと言います。訓練を一生懸命する分団ほど、実際の現場で強い」と語ります。



◆放火事件の裏側

昨年起こった連続放火事件のほとんどが、西尾分団の管轄内。3月中旬頃からは、消防署からの依頼で夜の7時から12時まで毎日交代で詰め所にいました。



◆やりがい感謝の言葉

「消火活動をしていたら、近所のおばあちゃんが『お疲れさま』とおにぎりを持ってきてくれたことも。皆さんの温かさが原動力になります」がんばれるのも家族の理解があつてこそ。また、勤務先が協力的であることも大きな支えです」と感謝の言葉が飛び交います。

「消防団は忙しいとか、大変とかいろいろな噂を聞くとありますが、まず1年経験してほしい。それから判断してほしいですね」

あなたも家族と地域を守りませんか？

消防団の団員を募集しています。

●入団資格

満20歳以上で市内在住または在勤の人

●勤務先への配慮

勤務先に対し、消防団活動をする場合の休暇の配慮や人事面で不利な扱いを受けることのないように市から文書を出してお願いしています

団員募集中！消防団のみんなは、大人になってからできた仲間です。仲間になって一緒に地域を守りませんか？

